

6月12日

2年B組 国語の研究授業

4日の2年D組に続き、国語の研究授業がありました。参観者は市内の国語教師たち。国語指導のレベルアップを図るとともに、瑞浪北中学校の生徒の様子と国語の授業に取り組む姿の発表がそのねらいです。統合したばかりの生徒たちがどのように学習を進めるかに、参観者は興味津々でした。

教材は説明的文章「生物が記録する科学—バイオリギングの可能性—」でした。この時間は、本論の後半の内容を理解するとともに、そこに施された表現の工夫を見つけることに取り組みました。

一人読みでは、本文を丁寧に読みながら表現の工夫だにとらえた言葉や部分を見つけました。どの生徒も黙々と取り組み、発言できるようにノートに自分の読みを丁寧に書き込んでいました。参観者からは「一人一人の取り掛かりが早く、これまでの学習が確実に力となって身につけていることがわかった」「細かな言葉や文末、例示などに着目し、国語の学び方がしっかりと身につけている」という意見がたくさん出ました。



付けた力を駆使して取り組む一人読み



積極的に挙手をする2年B組の生徒たち

表現の工夫としてみつけたことを積極的に交流し合った後は、本論後半で「アデリーペンギンを例として筆者が取り上げた効果」に絞って深めました。

生徒たちは、文章を通して筆者が主張したかったこと（ペンギンに限らない動物の生態の不思議さについて追究するための、「バイオリギング」

という方法の有効性)に気付き、この時間のねらいを達成しました。

そんな中で、生徒たちが発言ではほとんど触れなかった段落に着目し、堂々と発言するA君がいました。2Dの理科の研究授業の時と同じように、自分のこだわりを自分の判断で発信する姿があり、そこから続く仲間が生まれ、授業が深まりました。

最後にまとめを発表したB君は、学級を代表して見事に例示の意図と筆者の主張を見事にかかわり付けました。瑞浪北中の生徒の主体的な姿を、参観者を通して市内に発信した授業になりました。